

館報 教育記念館

No. 97
令和3年11月 発行



企画展 肖像画で見る郷土の先賢展
SDGs 持続可能な開発
ー自然と共生し ふるさと富山をつくった人々ー



恒例展 第19回さんすうワールド展

きらめき未来塾



右脳活用道場



お笑い道場



思考道場

主な内容

◎教育時評 富山県高等学校長協会 会長 本江 孝一	2
◎第31回 郷土の先賢顕彰者紹介 浜多 虎松	3
笹山 忠松	4
伊勢多一郎	5
◎企画展 「肖像画で見る郷土の先賢展 SDGs 持続可能な開発 ー自然と共生し ふるさと富山をつくった人々ー」	6
◎恒例展 「第19回さんすうワールド展」	
◎「きらめき未来塾」 右脳活用道場・お笑い道場・思考道場	7
◎令和3年度「学ぼう！ふるさと未来」支援事業	
◎恒例展「第18回子どもの目、自然不思議発見写真展」	8



発行所／公益財団法人 富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎ (076) 433-2770)
発行人／富山県教育記念館 館長 富田 利通 印刷所／いおざき印刷株式会社



傘はあるのだが

富山県高等学校長協会

会長 本江 孝一

今日は傘を持っていこうか？出かけるときには天気予報が気になるが、天気を確実に予測することはできないことが分かっている。

気象学者の真鍋淑郎さんが2021年のノーベル物理学賞を受賞された。気象分野での受賞は初めてとのことで、関係者の方々の喜びもひとしおと報道された。気象と聞いて思い出すのが、気象学者のエドワード・ローレンツ（1917～2008）である。30年も前に受講したある講座で、ローレンツ方程式という気象予報のモデルとなる微分方程式を学んだ。空気の振る舞いはこの微分方程式に従うものの、積分法による解が得られないため、その振る舞いを知るには数値解析を用いざるを得ない。しかし、初期状態の僅かな差によって、得られる値に大きな差が生じることに加えて、数値解析の過程で生じる誤差によっても、得られる値と真の値とのずれが増幅されることから、原理的に空気の振る舞いの予測は不可能、というものである。なので、原理的に予測不能な天気を精度高く予測することも大変なことだが、真鍋さんは、長期的な地球の気候予測を導く、大気と海洋を組み合わせた気候モデルを作り上げられた。真鍋さんは「気候の研究が楽しくてしょうがない、なぜこういうことが起こるのか？という好奇心が研究に向かう原動力であった」と語られた。

また、朝永振一郎（1906～1979）は、1974年、湯川秀樹、江崎玲於奈とともに招かれた「ノーベル物理学賞受賞三学者 故郷京都を語る」と題された座談会を終え、子どもたちへ贈る言葉を請われて「ふしぎだと思ふこと これが科学の芽です。よく観察してたしかめ そして考えること これが科学の茎です。そうして最後になぞがとける これが科学の花です」と色紙に

書いたそうだ。（『Science Window 2017夏号』から）

話は変わるが、1973年にノーベル生理学・医学賞を受賞した動物行動学者のニコ・ティンバーゲン（1907～1988）は、生物学で、「なぜ？」と問いかけるとき、いくつかの異なる答え方があることを強調した。例えば、「鳥は、なぜ春になるとさえずるのか」という問いに対して、①日長が伸びて、体内のホルモンレベルを変化させる引き金がかかるから。のどを空気が通って声帯を震わせるから。②両親や周りの個体からさえずりを学習したので。③繁殖のために配偶者を引きつけようとして。④祖先の単純な地鳴きから進化して。というように、様々な答えがある。当時、自説こそが正しいとした論争に、ティンバーゲンは、それらの主張はどれも正しく、答えの観点が異なるだけであるとして、これらの要因を4つに分類し、それぞれ、直接要因、発達要因、適応要因、進化要因とした。私たちは、整理された後の時代を生きているので、当たり前のように感じられるかも知れないが、この整理で多くの学者が実りのない議論から解放された。いかなる議論においても、それがかみ合っているか、そうでないのか、そうでなければ、その原因は？と考えることは大切である。

真鍋さんや朝永博士がいう「好奇心」や「ふしぎだと思ふ」気持ちには、子どもたちの誰もがいただいている。科学に限らず、子どもたちが自然や他者との実りある対話を通じて、この芽を茎に成長させ、そして花を咲かせられるように、いかに子どもたちを未来に育むのか、教育の課題も尽きることはない。

第31回 郷土の先賢顕彰者紹介

3階 郷土先賢室



カニかご漁法の開発者

はまだ とらまつ
浜多 虎松 (1916～1966)

浜多虎松は、大正5年(1916)4月27日、魚津町下新町(現 魚津市本町)に浜多駒次郎の次男として生まれた。富山県水産講習所(現滑川高校海洋科)卒業後、親族の漁業活動に協力するため、台湾・朝鮮で漁業に従事した。戦後は、日本に帰国し、地元で底引き網やサケ・マス流し網漁業に従事し、後に小型定置網を兄と経営していた。

ベニズワイガニは、俗称「立山カニ」と称されていたカニで、富山湾や能登半島及び新潟県沖合の深海に生息しており、刺網漁業によってわずかな数量が捕獲されていた。しかし、刺網漁法は、漁による網の損傷が大きく、修理に多大の労力と時間を要した。また、網にからまったカニの取り外し作業にも時間がかかり、その間の鮮度保持に大変苦労していた。

カニ漁の盛んな魚津地区の漁業青年研究会員だった虎松は、これらの問題を解決するため、新規漁具漁法の開発に努めた。当時、虎松は、かご漁法によって磯辺のカニを採捕していたことから、この方法を改良することによって、問題を解消できないかと考えた。だが、周囲からは、「深海のカニもかごに入るだろうか?」「大型のかごに海底の泥が詰まったら、とても引き揚げられるものではない」など疑問の声が多かった。しかし、日本海区水産研究所所長の内橋潔にも後押しされ、竹製のかごを発注し、いよいよ実地試験に向けて動き出した。

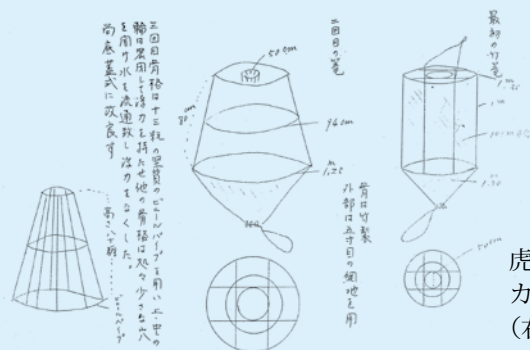
虎松は、かごの編み目を大きくすることで泥詰まりの問題を解決するだけでなく、資源保護の立場から、雌ガニや小型の雄ガニがかごから抜け出せるようにした。そして、昭和36年(1961)3月に初めて試験操業を実施。魚津市沖北東の水深500mにカニかごを10個投げ入れた。期待と不安があったが、かごを引き揚げた際、かごの底部がベニズワイガニで真っ赤に見えたという。合計220尾の雄ガニ(雌ガニは0尾)を捕獲するという成功をおさめた。

その後、魚津を中心にベニズワイガニのかご漁法が急速に普及した。昭和37年(1962)9月に、自由漁業であったカニかご漁法は資源保護及び漁業調整のため、許可制となった。また、翌38年(1963)には、富山県内の従来の刺し網漁船18隻がすべてカニかご漁法に転換した。そして、同41年(1966)には、富山県内のカニかご漁の漁獲量がピークとなり、1,890トンにもなった。

当時、カニかご漁法の特許を取得していれば、莫大な収入を得られたそうだが、虎松は、「自分だけがいい思いをするのではなく、みんなに教えてあげたい」と惜しげもなく広めたと言われている。昭和39年(1964)に、虎松は、富山海区漁業調整委員に選出され、昭和41年(1966)に他界するまで務めた。

虎松が考案したカニかご漁法は、昭和42年には新潟県、43年には兵庫県、44年には京都府・福井県と瞬く間に日本海側の全府県に普及した。漁業資源として利用されていなかったベニズワイガニを漁業対象とし、現在でも主要な漁法とされていることから、虎松の功績の大きさが分かる。見返りを求めず、カニかご漁の普及に尽力した一生であった。享年50歳。

〈専門員 飛弾 英樹〉



虎松が描いた
カニかごの改良図
(右から左へと改良)



左：現在のかご 右：当時の竹製のかご(復元)
— 魚津市「海の駅」に展示 —



富山の配置薬を誰もが知る医薬品に押し上げた アイディアマン

ささやま ただまつ
笹山 忠松 (1926～1981)

笹山忠松（旧姓中野）は、大正15年（1926）金沢市の伝馬町（現在の片町近く）の少林寺に父 中野松巖、母 きくいの次男として生まれた。その少林寺へお参りする人々の中に富山市の笹山ハルと孫の慶子がいた。

笹山慶子は昭和7年（1932）内外薬品商会の笹山順蔵とミドリの長女として生まれた。母ミドリが妹たちの世話で多忙なため、慶子は祖母のハルに育てられた。幾度となく通い会っているうちに、忠松と慶子は気心の知れた間柄になっていった。忠松は大学卒業後、金沢市役所に勤務していたが、慶子の思いを受け入れて、昭和26年（1951）慶子と結婚。富山市の内外薬品商会（現 富山めぐみ製薬株式会社）を背負うこととなった。

当時、全国に薬局が増え、配置薬業が先細りしていくことが予想された。そこで忠松は内外薬品の主力配置薬であったケロリンを薬局にも置いてもらえる一般薬にすることを重役会議に提案したが、旧来の商法を重視する重役たちには受け入れられなかった。しかし忠松は諦めることなく、数人の若い営業マンを引き連れ、自ら先頭に立ち、ケロリンの全国キャンペーンに乗り出した。

しかし、当時、欧米からの効き目の早い薬が重宝されていた時代に、「おきぐすり（配置薬）」の薬を置いてくれる薬局はなかった。そこで忠松は消費者にケロリンを知ってもらい、名指しで買ってもらえるようにすることを目指し、昭和30年（1955）、ラジオを使ったコマーシャル放送を開始した。昭和33年（1958）にはサトウハチローがCMとして初めて作詞し、服部良一作曲、楠トシエが歌うケロリンのコマーシャルソング「青空晴れた空」が全国のラジオから響き渡った。このCMソングの効果は絶大でケロリンは販売数を大きく伸ばした。一方、そのような忠松のやり方に、社内からは「広告費を使いすぎる」、配置薬業界からは「消費者の配置薬離れを促進するものだ」と批判されることもあった。

その後、昭和38年（1963）忠松のもとへコマーシャル湯桶のスポンサー企業を求めて、睦和商事社長 山浦和明（当時営業担当）が訪れた。話はすんなり決まり、山浦がデザイン開発したプラスチック桶にケロリンの広告文字を入れ、東京駅前の「東京温泉」に試験導入した。ちなみに初期の湯桶は黄色でなく白色であった。その後二人は、昼間はケロリンの販売で薬局や問屋を廻り、夜は温泉宿や銭湯で風呂桶を売り込み、昼夜を問わず営業で日本全国を駆け巡った。こうしてケロリンは全国の誰もが知る医薬品に押し上げられ、「くすりの富山」の地位を確固たるものとした。

忠松のアイディアはとどまるところを知らず、富山から空輸したますのすしを新商品と一緒に参加者に提供する新商品発表会の開催に加えて、後楽園球場のすべてのごみ箱への広告の貼り付けや東京タワーの入場券への広告印刷、銀座服部時計店の電光ニュースへの文字広告と、いわゆる「隙間広告」の先駆けにもなった。そしてさらに、新商品の開発・通信販売・海外生産・多角的経営等、新しいものを取り入れ、時代の先端を進む経営者として活躍したが、昭和56年（1981）3月死去した。56歳の若さであった。

<専門員 松井 功一>



ケロリン
CMソング
「青空晴れた空」



初代ケロリン桶



日本の養鶏の常識を変えた人

い せ た い ち ろ う
伊勢 多一郎 (1891～1962)

伊勢 多一郎は、明治24年（1891）砺波郡山王村（現 高岡市福岡町）に生まれた。早くに父を亡くし、母の手ひとつで育てられたため、経済的には大変厳しい幼少期を過ごした。しかし、そのような家庭は伊勢家だけではなく、当時の山王村の村人はほとんどが貧しく、多一郎は何とかして村が豊かになり、みんながご飯を食べられる仕事はないか考えていた。当時、村では庭に鶏を5～10羽飼っている家が多かった。多一郎は鶏の数を増やして養鶏をすれば、村が豊かになると考えた。明治45年（1912）21歳の時、多一郎は村をまとめ、山王小学校の前に小屋を作り、村中の鶏を集め養鶏を始めた。まず、村の仲間と「山王村家禽組合」を組織してヒヨコの生産から卵の販売までを一貫して行う体制をつくり上げた。その中で、多一郎は、食用卵のコストダウンを狙うため、卵をたくさん産む鶏をつくり出す育種改良事業に注力し始めた。日本の養鶏は江戸時代に始まったが、養鶏の常識は、「見た目がよい鶏はたくさん卵を産む」というものであった。多一郎は、この常識に疑問をもち、本当にたくさん卵を産む性質を持った鶏を調べ上げ、そうした鶏同士を掛け合わせてさらにたくさん卵を産む鶏をつくる方法を独自に開発していった。

その一つ目の方法が「トラップネスト調査」である。鶏は産気づくと、狭いところに入りこんで産卵に備える習性がある。多一郎はその習性を利用して、鶏舎の中に狭い巣（ネスト）を作り、その中に鶏が入りこむと自動的に戸が閉まる細工（トラップ）を考案した。それまでは鶏を一羽一羽取り上げて、腹に卵を持っているか確認しなければならなかったが、この調査方法を使うことで効率が飛躍的に上がった。

二つ目には、「後代検定」という方法も導入した。掛け合わせた親鳥から生まれた子どもの体型の特徴・産卵成績を一羽一羽記録するもので、調査する子どもの数を増やすことで、産卵能力の高い性質を備えた親鳥をより正確・確実に選び出せるようにした。

三つ目は、「人工ふ化」の方法である。多一郎は、雌鶏が卵を抱いているときに卵を転がしていることに気づき、卵を自動的に転がす伊勢式箱型ふ卵器を完成させるとともに、温度や湿度を管理することでふ化率を劇的に上げることに成功した。これは現代のコンピュータ制御のふ化器にも備えられている技術である。

当時の鶏は多くても年間150個ほどしか卵を産まなかったが、多一郎は誰も行っていなかった最先端の発想と発明で、昭和33年（1958）「三六五卵」をつくり上げた。これは1年365日、毎日卵を産む鶏のことで、世界初の快挙であった。日本養鶏に対する功績が認められ、多一郎は昭和34年（1959）に黄綬褒章を受章した。

こうして実績を積み重ねた多一郎は村のまとめ役として信望を集め、山王村会議員や福岡町会議員を25年勤め、町議会議長まで務めた。

事業も順調に成功し、昭和37年（1962）伊勢養鶏園として、国道8号線沿いに本社を建てることになり、その竣工式のスピーチ原稿を書いている最中に倒れ、この世を去った。71歳であった。その後、多一郎の思いは息子の彦信へと引き継がれ、伊勢養鶏園からイセ株式会社、イセ食品へとつながり、発展していった。

<専門員 星野 貴昭>



後代検定
膨大な戸籍
個体調査用
ファイル



伊勢式箱型
ふ卵器
石油ランプで
温めた

**企画展 「肖像画で見る郷土の先賢展 SDGs持続可能な開発
-自然と共生し ふるさと富山をつくった人々-」 4月12日(月)～6月20日(日)**



当館には、県所蔵「郷土の先覚100人」の肖像画が保管されています。今年は、今日のSDGsの視点から豊かな自然と共生し、よりよいふるさとづくりに尽力した「郷土の先賢」20名の足跡を、肖像画と共に功績や年譜を作成し展示しました。

「改めて富山県が数々の偉大な先人の努力によって発展し、今の姿になっていることが分かりました」「分かりやすく親しみやすい展示でした。女性の先賢が選ばれてなくて残念」などの感想をいただきました。

恒例展

第19回 「さんすうワールド 展」

7月14日(水)～8月26日(木)



「身近にある算数・数学を楽しもう」をテーマに、数や図形の不思議をクイズやパズルなどで紹介しました。数学者秋山仁先生がプロデュースした大型の数学体感遊具に加え、リニューアルしたクイズとプロ棋士の藤井聡太九段が幼い頃に遊んで直感力を育てたことで話題となったパズル「キューボロ」も展示し、興味関心をもてるようにしました。

「頭を使うクイズや実際に触って動かせるパズルがたくさんあっておもしろかった」「難しい問題もあったけど、子供と一緒に楽しみながらできた」などの感想が寄せられました。

きらめき未来塾（夏休み期間中）

子供たちの創造力や表現力、柔軟な思考力を養うことをねらいに、新型コロナ感染予防対策の徹底を図りながら、3つの道場を開催しました。参加した子供たちは、講師の先生方に教えてもらいながら、様々なことに挑戦し、活動を楽しむことができました。

★右脳活用道場（4回） 講師 森 みちこ（漫画家）

漫画づくりを通して、自分のアイディアを絵と言葉で表現する手法を学びました。みんなの作品は、一冊の漫画本になります。



★お笑い道場（4回） 講師 安野家 仁楽斎（社会人落語家）

落語を通して、ユーモアのセンスや表現力を高めました。最後の回は「お笑い大会」です。高志会館のステージで、小咄や謎かけを披露しました。



★思考道場（4回） 講師（県内小学校教諭 5名）

川口 和彦 島 由喜子 戸谷亜希子

西尾 尚起 窪田 稔彦

ゲーム感覚を取り入れた思考活動や操作活動などを通して、算数の楽しさや不思議を体感することができました。

令和3年度「学ぼう！ふるさと未来」支援事業

《助成対象校1校に10万円助成》

子供が地域の人や自然、歴史、文化にかかわる「ふるさと学習」等に地域と連携し取り組む学校に助成する事業です。今年度は次の5校が助成校となりました。

令和2年度 助成校の1校
【南砺市立井波小学校】

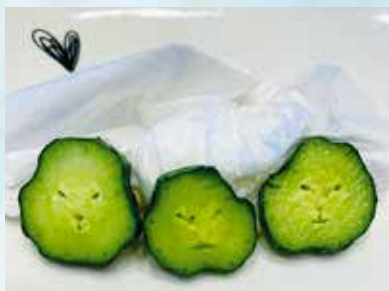


新型コロナウイルスの影響で中止になった「祭り」について調べ、「地域」への思いを強くしていく。

支援助成校	実践テーマ
舟橋村立舟橋小学校	ふるさとを愛する心を育てる ～舟橋村のためのプラス1をつくろう！～
高岡市立西条小学校	ふるさと西条に愛着と誇りをもち、ふるさとの未来を創造する子供の育成
高岡市立伏木小学校	伏木小学校の歴史と伝統文化を学ぶ
氷見市立十二町小学校	ふるさとに学び、ふるさとを受け継ぐ子どもの育成を目指して
南砺市立利賀小学校	友達や地域、他地域の人・もの・こととの関わりを契機に、主体的に探究する子供の育成

9月1日(水)～10月10日(日)

子供たちが、学校での学習や日頃の生活の中から、その目を通して発見し、撮影した自然界の「不思議」「きれい」「おもしろい」写真162点を展示しました。「わたしのよりもすごいひとがいてびっくりした」「どれも見方や題名がおもしろい作品ばかりでした」「日常のはっ!とする発見。『科学の心』につながる写真でおもしろいです」と、たくさんの「いいね!」が集まりました。



きゅうり三兄弟 (1年)



暑いですね、きのこパラソルをどうぞ (3年)



謎の巨人現る! (5年)



あっ・・・いた!!! (2年)



見上げたら海 (4年)

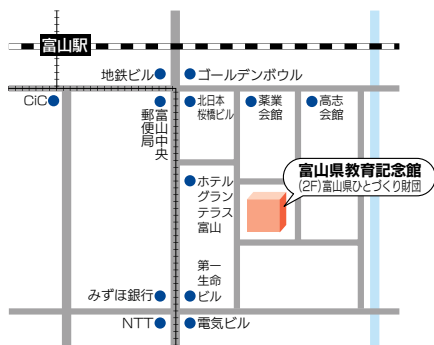


夜空にティラノ現る! (6年)

これからの展示予定

- ・ 児童・生徒によるものづくり展
- ・ 富山県造形教育作品展
- ・ アイデアロボット展
- ・ 富山県中学校美術展
- ・ 富山県版造形教育作品展・秀作回顧展

10月20日(水)～11月14日(日)
11月20日(土)～12月5日(日)
12月11日(土)～1月9日(日)
1月21日(金)～2月6日(日)
2月16日(水)～3月27日(日)



公式Twitter

https://twitter.com/t_hitozukuri

令和3年1月に公式Twitterを始めました。財団の取組みや富山県教育記念館の展示情報を掲載しております。ぜひ、フォローをお願いします。



あ・と・が・き

読書の秋、スポーツの秋、実りの秋、芸術の秋……。皆さんはどの秋を堪能されていますか。

原稿をお寄せくださった皆様、手に取って読んでくださった皆様、ありがとうございました。

富山駅
近く

会議室を一般の方に**安価**でお貸しして、打合せや趣味の活動などにご利用いただいております。詳しくは教育記念館ホームページをご覧ください。
<http://www.t-hito.or.jp/reserve/index.html>

会議室をご利用ください!

